

「ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学経済学部・4年 黒田淳也

二週間という短い間だったが、とても濃密な二週間となった。出発前に大きく分けて二つの目標を定めたが、研修を通してそれらを達成することができた。

一つ目の目標はベトナムを肌で感じ、ベトナム人と仲良くなり、彼らの考え方を知ることであった。実際に日本語の授業に参加し多くのベトナム人学生と仲良くなり、彼らと一緒に話をし、勉強し、遊ぶことを通じて、彼らの考え方などを知ることができた。日常的な物事に対する考え方だけでなく、歴史に対する考え方も学ぶことができた。特に驚いたのは、プログラムを通して知った、ベトナム人のフランスに対する考え方である。ベトナムはフランスに支配されていたにも関わらず、フランスに対して悪い印象を持っている人は少なく、むしろよい印象を抱いている人が多いというのは驚いた。その原因として、ベトナムは最終的にフランスに勝ったから、というのも考えられるが、それだけでなく、ベトナム人は過去のことを水に流し未来へ進む、というのもこの原因の一つであると知った。しかし一方で、国境を接し、過去に何度も戦ってきた中国に対する印象はかなり悪かった。また日本に対する印象は悪くなくむしろよいものであった。これらはものすごく興味深かったため、今後自分自身このようなことを調べていきたいと思った。自分の国に引きこもってはいは、このようなことは感じられないので、今後も自分で海外に足を運んできたいと思う。また勉強のためだけではなく、ビジネスでベトナムをはじめとする海外にいてみたいという気持ちが強くなった。なぜなら、ベトナムの力強さを肌で感じ、またそこで働く人々が、日本で働く人より生き生きしていたからである。このような環境に身を置き、ともに成長していきたいと感じた。

二つ目の目標は日本のことを伝える、ということであったが、これに関しては達成できた部分と達成できなかった部分があった。ベトナム人学生との交流や相互学習を通して、日本人の日常生活や物事に対する考え方などについては伝えられた。また私を含めた日本人学生の行動や態度を通して、日本人がどのようなものであるのかというものも伝えられたと思う。しかし完全には日本について伝えることができなかった。このことは反省し改善していきたいと思う。例えば、日本の世界遺産の数などを答えられないことがあり、“外国と比較した日本”に関する知識をこれからつけていかななくてはならない。また、日本はもともと男尊女卑だったが、最近はその状況が変わってきているのはなぜなのか、といったことに対して、普段あまり考えることはなかったが、今後このようなことについても考えていきたいと思った。すなわち、日本に関する知識をもっと身に付けると同時に、日本はなぜそうなっているのか、ということについても知っていきたい。そして今後外国人に対してそれらについて伝えていきたい。

今回の研修を通じて多くのものを得たが、そのなかでも、ベトナム人との友情はものすごく大事な宝物となった。二週間という短い間にこれだけ仲良くなれたのは本当に幸せなことであり、今後も一生連絡を取り続けていきたい。日本とベトナムで離ればなれになってしまうが、これからもこの宝物を大事にしていきたい。